

第3章 温室効果ガスの排出状況

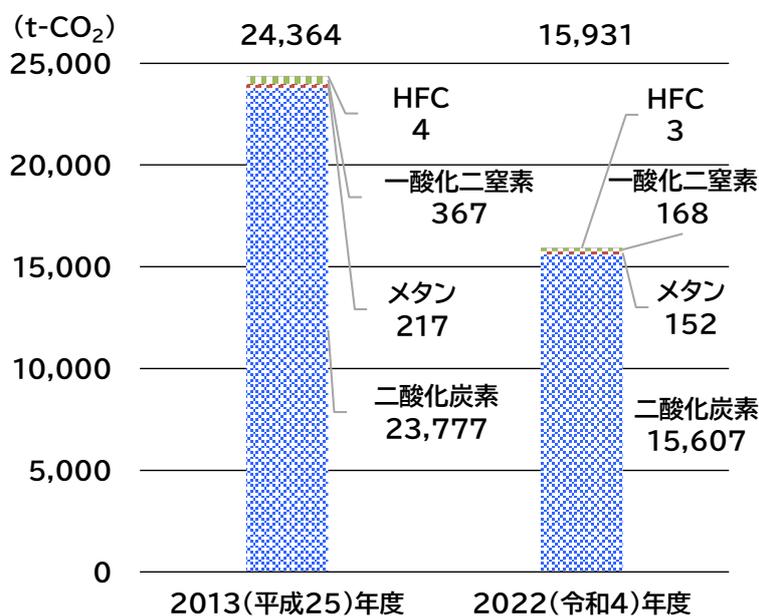
1 温室効果ガス排出量

本市の事務事業に伴う温室効果ガス排出量は、表 3-1 及び図 3-1 のとおり、基準年度である2013(平成25)年度において、24,364t-CO₂、直近の2022(令和4)年度において15,931t-CO₂となっています。

表 3-1 本市の事務事業に伴う温室効果ガス排出量

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量(t-CO ₂)	
	基準年度 (2013(平成25)年度)	現況年度 (2022(令和4)年度)
二酸化炭素(CO ₂)	23,777 (97.6)	15,607 (98.0)
メタン(CH ₄)	217 (0.9)	152 (1.0)
一酸化二窒素(N ₂ O)	367 (1.5)	168 (1.1)
HFC	4 (0.01)	3 (0.02)
合 計	24,364 (100.0)	15,931 (100.0)

注:括弧内の数字は、割合(%)を示します。



■ 二酸化炭素 ■ メタン ■ 一酸化二窒素 ■ HFC

図 3-1 温室効果ガスの種類別内訳

また、経年変化は図 3-2 のとおり、2021(令和3)年度に増加がみられましたが、概ね減少傾向で推移しています。これは2013(平成25)年度に比べて、電気の使用量が減少傾向であること、また、全体としては電気の排出係数も小さくなってきていることによると考えられます。

なお、2021(令和3)年度の増加については、電気の排出係数が上昇したことなどが影響しています。



図 3-2 本市の事務事業に伴う温室効果ガス排出量の推移

2 温室効果ガス排出量の要因

本市の事務事業に伴う温室効果ガスのうち、大部分を占めるのはエネルギーの使用に伴う排出です。その内訳は、図 3-3 のとおり、電気の使用によるものが最も多く、次いで都市ガス、灯油等となっています。

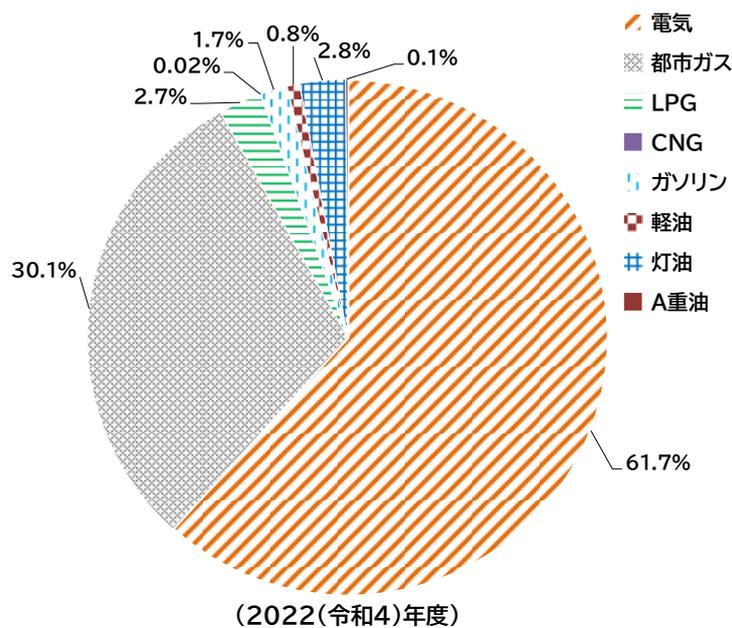


図 3-3 温室効果ガスのエネルギー種類別の排出割合

また、温室効果ガスの排出を部署別にみると、表 3-2 及び図 3-4 のとおり教育総務部が最も多く、次いで市民病院、上下水道局等となっています。教育総務部は、幼稚園・小中学校を所管しており、施設の規模が大きく、数も多いことから、排出が多くなっています。

エネルギーの種類別では、電気の使用による排出は、市民病院が最も多く、次いで教育総務部、上下水道局等となっています。都市ガスの使用による排出も、教育総務部及び市民病院が多くなっています。電気・都市ガスの使用以外による排出は、市民環境部や上下水道局、教育総務部が多くなっています。市民環境部は斎場を所管しており、灯油の利用があることから、排出が多くなっています。

表 3-2 部署別の温室効果ガス排出量

(2022(令和4)年度)

部署名	温室効果ガス排出量(t-CO ₂)			合計
	電気の使用によるもの	都市ガスの使用によるもの	電気・都市ガスの使用以外によるもの	
総合政策部	0	0	4	4
総務部	423	162	11	595
財務部	0	0	6	6
市民環境部	233	71	526	830
危機管理部	0	0	1	1
福祉部	164	156	11	331
保健部	104	0	160	264
子ども家庭応援部	268	113	48	429
魅力創造部	927	298	11	1,235
まちづくり推進部	0	0	11	11
建設部	329	1	34	365
公営競技事業所	688	340	15	1,043
市民病院	2,287	1,583	3	3,873
会計管理者	0	0	0	0
上下水道局	1,487	0	268	1,755
議会事務局	0	0	1	1
教育総務部	1,885	1,825	216	3,926
学校教育部	6	0	3	9
生涯学習部	701	174	13	889
選挙管理委員会事務局	0	0	0	0
監査事務局	0	0	0	0
消防本部	180	7	176	362
合計	9,682	4,729	1,519	15,930

注. 四捨五入の関係で、合計値は整合しない場合があります。

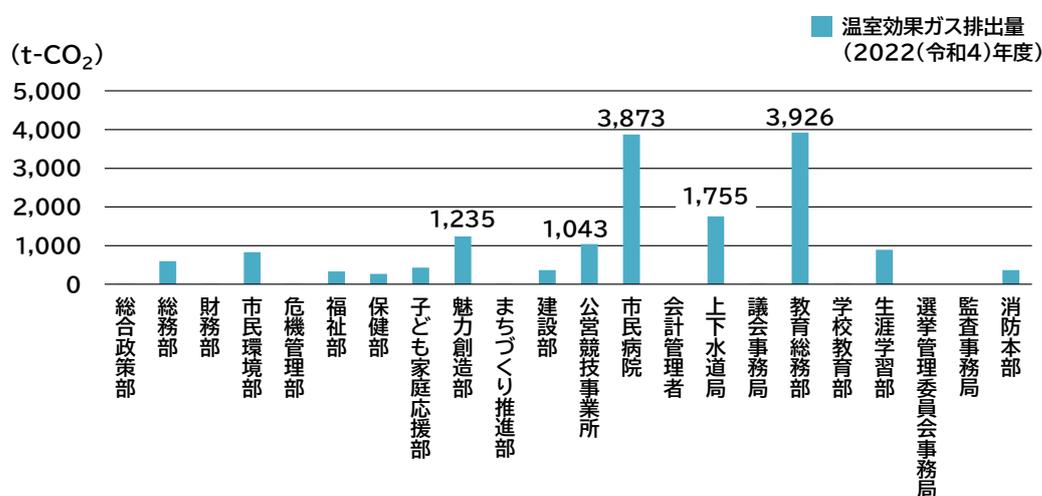


図 3-4 部署別の温室効果ガス排出量

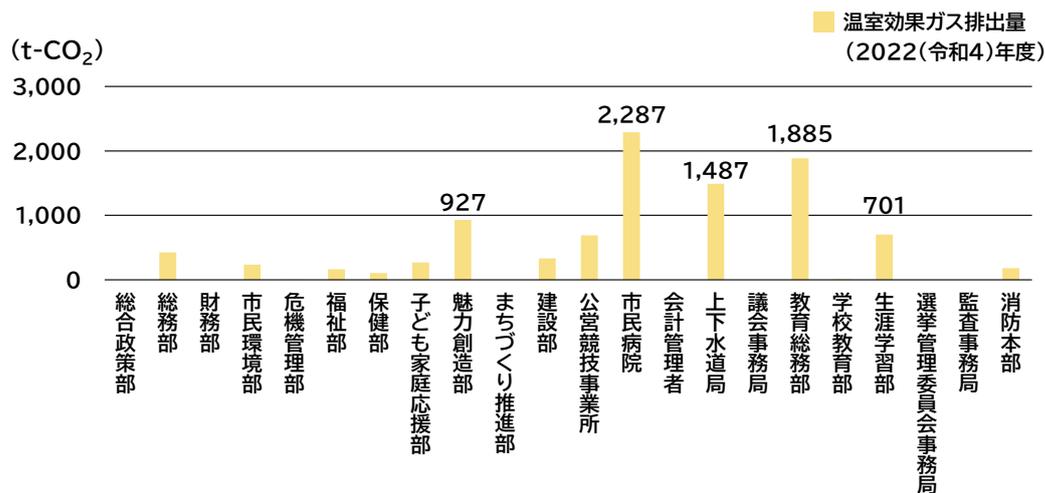


図 3-5 部署別の温室効果ガス排出量(電気の使用によるもの)

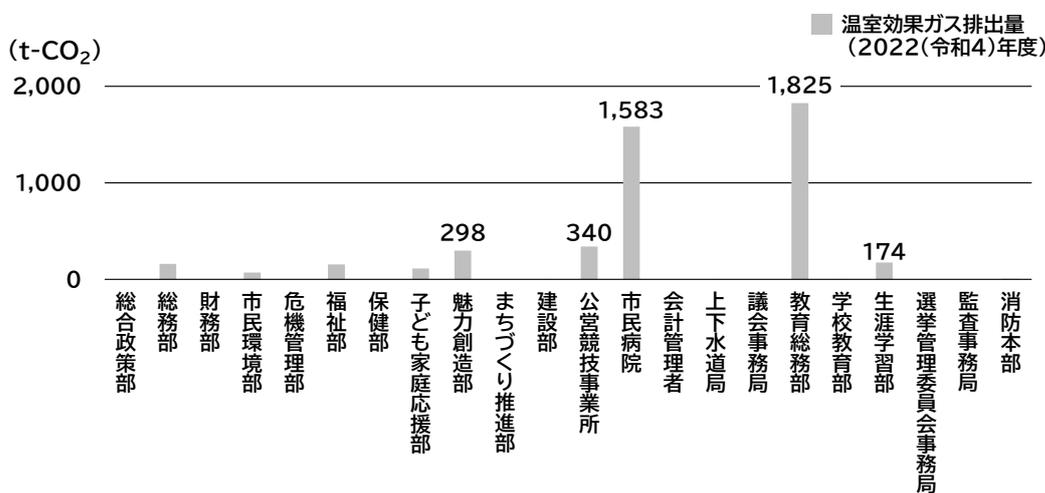


図 3-6 部署別の温室効果ガス排出量(都市ガスの使用によるもの)

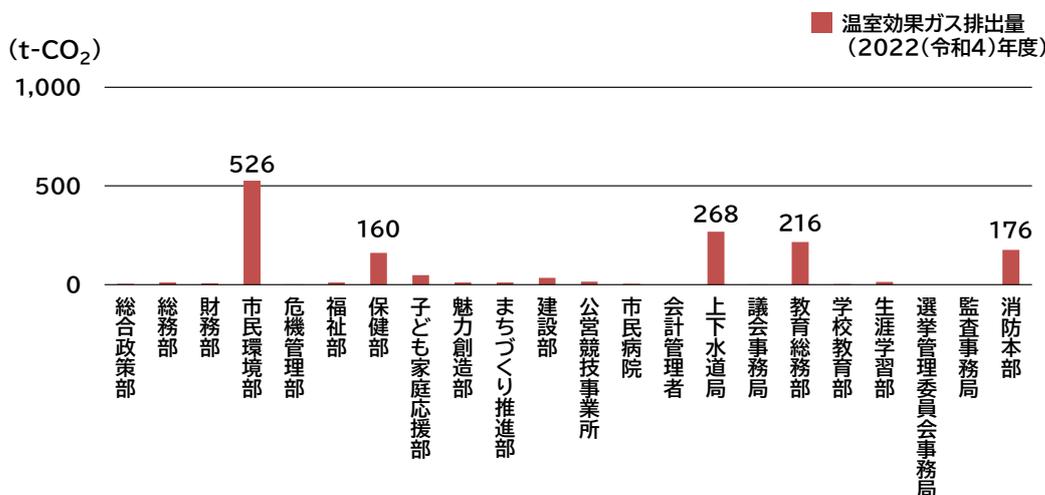


図 3-7 部署別の温室効果ガス排出量(電気・都市ガスの使用以外によるもの)